

「全少」を日本一研究する指導者による提案

ZENSHOに 挑戦しよう!



第92回

養正館館長 渡辺貴斗



ウチの子、もしかして発達障害? (その8) 二次障害とは?

★予め伝えておく

1ヵ月の無料体験中は比較的態度が良いのですが、入会した直後あたりから本領発揮して大暴れしたり、金属音のような奇声をあげたりする子がいます。

はじめのうちは道場の敷居が高いのか、緊張して猫をかぶっているのでしょう。そこで、体験入門中の態度とは全然違う、入会後の稽古態度をお母さんに伝えます。すると、「うちの息子はADHDですので、止まっていられません」、「自閉症で1年生の頃から通院しています」などと答えるお母さんがいらっしゃいます。

入会するときに教えて欲しかった旨、伝えますと「空手を習うのに、発達障害は関係ないでしょ」などと返答されます。

私たち指導者としてしましては、入会する前にこういった大事なことは知らせておいてほしいと伝えます。もしこのまま知らされずにいたら、私たちはその子を健常者(定型障害)と信じ切っておりますので、場合によっては「真面目にやれよ、何でできないの?」といった配慮のない声掛けになってしまうこともあるでしょう。

また、空手指導は集団授業ですので、自分勝手な行動をとっている子には注意したり、どうしても叱らなくてはならない場面も出てきます。稽古中にも^{かわ}拘らず、周りの子に無差別に手を出したりする子も過去に少なからずいました。そのような場面を目撃したら、見て見ぬふりをするわけにもいきません。

子供たちも「あいつ、いつも先生に叱られてる」、「みんなで、からかってやろうぜ」といった空気になり、イジメられたり、仲間はずれにされたりする

ことにつながっていきます。発達障害であることを指導者に伏せていたことで、周りからの評価が下がり、自分のことを“どうせ僕はダメ人間”と自己否定するようになっていくのです。

★二次障害とは?

このように発達障害が原因ではありますが、発達障害の直接的な困りごとではない、二次的な問題が生じることを「二次障害」といいます。例えば、ADHDと診断されたお子さんで「不注意」があると、忘れ物を頻繁にすることになります。学校の先生から毎日注意されることで、周りの友達からの評価が下がり、からかわれたりすることにつながっていきます。それが原因で、朝学校に行くときに腹痛や頭痛を訴えたり、対人恐怖症、不登校、引きこもりにつながり、イライラから暴力を振ったり自暴自棄になっていきます。

「明日は絶対に忘れ物しないぞ」と思ってしっかり準備したつもりなのに“不注意”からまた忘れ物してしまった、頑張っているのにうまくいかない。

↓
君は本当にいつも忘れ物ばかりするんだな、隣の人に借りなさい。

↓
なんでまた私が貸さなきゃならないの? いい加減にしてよ。

↓
ごめんなさい、明日は絶対に忘れ物しないから。

↓
また学校で忘れ物したのか、お父さんが子供の頃は忘れ物なんか無かったぞ、一体誰に似たんだ。

↓
僕は本当にダメな子なのかな? 僕なんていなくなった方がいいのかな。

これがまた最初に戻って、グルグル回って負のサイクルに入っていきます。そうなる前に、早く周りの大人が気づいてあげなくてはなりません。先生から人格否定されるような声掛けをされ、クラスメートに呆れられ、お父さんから叱られ、自分が嫌いになり、周りから孤立していきます。

★どうやって予防する

二次障害が起きてしまう前に、どんな対策をしてあげばよいのでしょうか？

①まず第一にやることは、ご両親、学校の先生、空手の先生などの周りの大人が、発達障害の存在を認め、理解し、専門家のアドバイスを共有することが大事です。

お父さんが発達障害を認めなかったり、学校の先生が呆れた態度をとったり、空手の先生が叱っただけの状態を、すぐに止めなくてはなりません。周りの子たちも、「先生が呆れているくらいだから、オレたちがからかっても叱られないだろう」と思うわけです。

まず、周りの大人が、その子の困っている点に気づき、理解してあげることが最優先されます。

②次の対策は、本人が何で困っているかを知り、その困っていることが緩和されるよう、学校や道場での環境を調整してあげることです。

例えば、学校で、強い近眼の子を最前列の席に座

らせてあげても、文句を言う人はいませんね。これを配慮といいます。その子だけに配慮すると「えこひいきしている」、「特別扱いしている」などと考える保護者が出てきますので、特定の子に配慮するというよりは、全体の環境を変えてしまっただけに誰にも気づかれずに、困っている子が快適に学べるようにする工夫も有効です。

本当は、障害のある子に特別な配慮をしても、理解してあげられる社会が理想ですが。まだまだ現状の社会では難しいので、指導者の工夫が必要ですね。

③最後の対策は、自己肯定感を高めてあげることです。

今までずっと否定的な声掛けをされてきましたので、本人は「僕はどうせダメ人間」と思っています。そこで、たくさん肯定してあげる作業が必要になります。凍った氷に、お湯を掛ける感じです。つい問題行動に目がいってしまい、いつものようにダメ出しばかりになってしまっていますが、できないことは思い切って目をつぶり、頑張っていること、できるようになったことに注目してあげるようにします。

そうすると、こちらでもできたところ探しになるので楽しくなってきますし、不思議とあれほど何度言い聞かせてもできなかったことが、自主的に改善しようとしたり、変化が見られます。これは、過去に多くのお母さんに声掛け改善の協力をしていただいて、明らかに有意差のある結果を得ていますので、みなさんもぜひお試しください。

二次障害が起きてしまっただけからでは、解決するのに困難を極めます。できるだけ早めに、周りの大人が医療機関、専門機関と相談しながら対処することが必要とされるでしょう。

2022年全少 準優勝！

8月10日、11日、調布市で開催されました第22回全少において、山本美緒（小1女子）が組手で準優勝しました。帯広市で開催予定の全少選抜にも出場が内定しており、市長表敬訪問では「今度こそ日本一になります！」と力強く宣言しました。



PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞を連続で記録する。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12